

英国式金管バンド

セタコマバンド

SPRING CONCERT

FOREST
of DEAN



Riverdance



2026年
4月26日 (日)

13:30開演 (13:00開場)

エコルマホール

指揮

武藤 卓

Suguru Muto

お問い合わせ先 setakomaband@gmail.com
www.setakomaband.com

主催 セタコマバンド



Instagram



facebook



Message ごあいさつ

本日はご来場いただき、誠にありがとうございます。私たちの活動を日頃から温かく支え、このステージを実現するために力を尽くしてくださった全ての方々に、深く感謝申し上げます。

金管楽器と打楽器のみが持つ無限の可能性に魅せられ、一步ずつ歩みを重ねてきました。本日のメインは、D.ブルジョワの隠れた名作『The Forest of Dean』です。イギリスの伝統を軸に、多様なエッセンスを織り交ぜた独自の響きを探究しました。

理想の響きを追い求め、皆様の心を揺さぶり、日々の生活に彩りを。そして何より、感動できる音楽をお届けしたい。そんな想いを音に乗せた、今の私たちが奏でる等身大のアンサンブルを、最後までどうぞごゆっくりお楽しみください。

セタコマバンド代表 池田真代

Conductor 指揮者紹介

武藤 卓 *Suguru Muto*



千葉県出身。東京ミュージック&メディアアーツ尚美卒業、2011年フランスへ留学。ペルピニャン地方音楽院卒業後、リヨン国立高等音楽院修士課程修了。

第25回ヤマハ新人演奏会、フランス、ツールで行われたユーフォニアム・チューバコンクールにおいてファイナリスト、第29回日本管打楽器コンクールにおいて3位(1位なし)。留学中にBrass Band du Rhône、Brass Band de Lyonに参加。エキストラとしてParis Brass Bandを始め、フランス、スイスなどブラスバンドにも参加。またフランスのユーフォニアム・チューバキャンプで講師を務める。

現在日本で活動中。セタコマバンド常任指揮者。エンペラーペンギンブラス指揮者。ハッピーペンギンブラストレーナー。

Setakoma Band バンド紹介



東京都世田谷区・狛江市を拠点に活動する英国式ブラスバンドです。2018年、「楽しくも向上心あふれる活動」を掲げ始動しました。本場の伝統に敬意を払い、「音を磨き、心に響かせ、人生を彩る」という想いを込めて、唯一無二の「セタコマサウンド」を追求。地域に根ざしながら、本場にも引けを取らない本格的な響きを目指し、最高の仲間と共に日々熱く活動しています。

#セタコマコンサート のハッシュタグをつけて感想をどしどし投稿してください！

Instagram



facebook



各種SNSも随時発信しております。

ぜひフォローしてセタコマの最新情報をご覧になってみてください！

QRコードで読み取り、もしくは「SETAKOMA BAND」で検索！

Programme

第 1 部 The British Heritage —英国式ブラスバンドの伝統と遺産—

Trailbraze Goff Richards 作曲

「先駆者として道を切り拓く」という意味を持つタイトル通り、輝かしいファンファーレで幕を開けます。躍動感あふれる快速なテンポに乗り、ゴフ・リチャーズらしい色彩豊かなハーモニーと爽快なメロディーが次々と駆け抜けます。演奏会の始まりにふさわしい、挑戦心と推進力に満ちたエネルギーをお楽しみください。

In Perfect Peace Kenneth Downie 作曲

聖書の一節に基づく聖歌を、金管楽器特有の柔らかな音色で編み上げた至福の小品です。救世軍の伝統を汲む作曲者が、祈りにも似た静謐な旋律で「豊かな平安」を表現しました。控えめな音量の中で重なり合う繊細なハーモニーは、聴く人の心に穏やかな安らぎをもたらします。セタコマが大切にする「心に響く音」を象徴する、温かみあふれる名曲です。

Flashback Peter Graham 作曲

2022年、指揮者リー・リグとワードル・アカデミー・ユースバンドのために書かれました。自身の歩みを俯瞰するように、過去作の断片が引用されています。「Prisms」や「Dimensions」等の初期作から、「The Triumph of Times」や「Metropolis 1927」といった近年の代表作までが随所にフラッシュバックし、新旧のサウンドが鮮やかに交錯します。作家の軌跡を凝縮した、技巧的な構成を特徴としています。

Deep Harmony Handel Parker作曲 A.Broadhead編曲

イギリスのオルガン奏者ハンデル・パーカー（1854–1928）によって1867年に作曲された、英国ブラスバンド界で最も愛される賛美歌の一つです。ヨークシャー地方の豊かな伝統を感じさせる重厚な和声の特徴で、その名の通り「深みのある響き」を湛えています。シンプルながらも気品ある旋律が、金管楽器特有の豊かな中低音域によって壮大に奏でられる名曲です。

The Forest Of Dean Derek Bourgeois作曲

ブラスバンドの「コンテストピース」とは、バンドの技術的・音楽的ポテンシャルを全方位から引き出すために設計された特殊な楽曲です。コンテストという競争の場を持たない私たちにとって、こうした難曲への挑戦は、アンサンブルの緻密さを磨き、バンドの現在地を正しく把握するための「指標」となります。順位のためではなく、音楽本来の輝きを解き放つために全機能を全うさせる。この試練を通じた音の深まりこそが、2018年の始動以来私たちが掲げる「向上心」のあり方です。

本作は、1960年代初頭に王立音楽大学でブルジョワの師であったハバート・ハウエルズの思い出に捧げられた作品です。タイトルの「ディーンの木」は、ハウエルズの生誕地であり、ブルジョワ自身が本作を執筆したイングランド・グロスターシャー州の古き森の名に由来します。主題は、ハウエルズの鍵盤作品集『ランバーツ・クラヴィコード』内の「デ・ラ・メアのパヴァーナ」から採られ、切れ目なく6つの変奏が続きます。

- ・第1変奏：激しい変拍子を伴う、力強く力動的な幕開け。
 - ・第2変奏：軽快な6/8拍子。和声の中に潜む「対斜（音が半音ずれてぶつかる、ちょっとした『ひずみ』や『濁り』）」が特徴です。
 - ・第3変奏：最も規模が大きく、攻撃的な和声と力強いエネルギーに満ちた変奏。
 - ・第4変奏：一転して、バンド全体が賛美歌を歌うような非常にゆっくりとした和音を奏でます。
 - ・第5変奏：刺すような和声と辛辣なウィットに富んだ、皮肉めいたワルツ。楽譜には「Very jolly (とても陽気に)」と記されています。
 - ・第6変奏：パッサカリア形式によるバッハやヘンデル風な対位法が展開されます。
- 終盤に向けて主題が本来の姿で回帰し、最後はまばゆい栄光 (in a blaze of glory) の中で全曲を締めくくります。

Blackbird Special

Dirty Dozen Brass Band作曲 Reid Gilije編曲

1977年にニューオーリンズで結成され、伝統的なジャズにファンクやR&Bを融合させた独自のスタイルで世界を席卷した「Dirty Dozen Brass Band」の代表曲です。1979年のデビュー以来、ストリート・ミュージックの奔放なエネルギーをステージへと持ち込み、現代のブラスバンド文化に多大な影響を与えてきました。本作はReid Gilijeによる英国式ブラスバンド向けの編曲で、ニューオーリンズ特有のグルーブ（ノリ）が楽曲の核心となっています。音楽的な聴きどころは、複雑なシンコペーションを伴う強烈なビートと、全パートに求められる厳密なアーティキュレーションです。特に楽曲中盤の力強いマルカートや、一糸乱れぬリズムの応酬は、バンドの一体感と推進力を存分に感じさせてくれます。ブラスバンドの持つ「響きの厚み」と、ファンクの「キレ」が融合した、エネルギッシュなアンサンブルをお楽しみください。

Under the Boadwalk

フリューゲルソロ:青木瑞生 A.Resnick & K.Young作曲 Philip Harper編曲

1964年にアメリカのヴォーカル・グループ「ザ・ドリフターズ」が放った世界的大ヒット曲です。夏の海辺でのひとときを描いたこの曲は、どこか懐かしく開放的な「バカンスの空気感」を湛えています。ブラスバンド界の鬼才フィリップ・ハーパーによる編曲版は、名門コーリー・バンドが2015年の「ブラス・イン・コンサート」で披露し、そのシンプルながらも美しい構成で話題となりました。本作はフリューゲルホーンのソロ曲として書かれており、金管楽器の中でも特に柔らかく豊かな音色を持つフリューゲルホーンが、ラテン風のリズムに乗って叙情的に歌い上げます。穏やかな波のような伴奏と、奏者の息遣いが聞こえるような甘い旋律が交錯し、会場を穏やかな安らぎで包み込みます。日常を忘れさせるような、晴れやかでリラックスしたひとときをお届けします。

Be My Love

ユーフォニアムソロ:池田真代 Nicholas Brodzky & Sammy Cahn作曲 Ray Farr編曲

1950年のミュージカル映画『ニューオーリンズのトースト (The Toast of New Orleans)』の挿入歌として、伝説的なテノール歌手マリオ・ランツァが歌い、同年のアカデミー歌曲賞にもノミネートされたロマンティックな名曲です。映画の物語は薄れつつありますが、この曲はランツァのシグネチャー・ソングとして今もなお世界中で愛され続けています。レイ・ファーによるこの編曲は、ユーフォニアムの独奏曲としてブラスバンドのレパートリーに不動の地位を築いています。人間の声に最も近いと言われるユーフォニアムの甘美な中低音が、映画の主人公が愛を誓うような情熱的なメロディーを奏でます。前半の囁きかけるような繊細な歌い回しから、終盤にかけての圧倒的な高揚感まで、楽器の魅力を最大限に引き出した華やかな編曲をお楽しみください。

Riverdance

Bill Whelan作曲 Ray Farr編曲

1994年のユーロビジョン・ソング・コンテストの幕間劇として誕生し、世界中にアイルランドの伝統文化旋風を巻き起こした伝説的ダンス・ショーのメインテーマです。アイリッシュ・タップダンスの力強いステップと、ケルト音楽の神秘的な響きを融合させたこの作品は、今や一つの文化的アイコンとなっています。

レイ・ファーによるブラスバンド版は、原曲の持つエネルギッシュな側面だけでなく、アイルランドの広大な自然を思わせる叙情的な美しさも巧みに表現されています。楽曲の大きな見どころは、随所に散りばめられたフリューゲルホルンとコルネットによるソロパートです。霧が立ち込めるような静謐な導入部や、物語が大きく動く転換点において、これら金管楽器の豊かな音色が主役となり、哀愁漂う美しい旋律を歌い上げます。柔らかなフリューゲルホルンの響きと、艶やかなコルネットの音色の対話は、まさにこのショーの「魂」を象徴する瞬間に他なりません。

後半に向けては、一転して爆発的なエネルギーが解放されます。目まぐるしく変化する拍子と、一糸乱れぬ高速フレーズが全パートに要求される、極めて難易度の高い構成となっています。打楽器との緻密なアンサンブルが、タップダンスの鋭いステップを鮮やかに描き出し、静寂から最高潮へと昇り詰めるラストシーンの昂がり、まさに「リバーダンス」の真骨頂です。伝統への敬意と、ブラスバンドならではの圧倒的なパワーが交錯する、ステージの締めくくりにふさわしい大作をお楽しみください。

History 2018-2026

「ブラスバンドが好き」という純粋な原点

セタコマバンドの物語は2018年2月、世田谷と狛江を拠点とする数名の愛好家の手によって、小さな体験会から始まりました。「セタガヤ&コマエ」の略称として親しまれたその名は、同年3月に正式な名称となり、地域に根ざした活動の第一歩を記しました。初期の活動では『Floral Dance』や『Oceans』といった楽曲に親しみ、バンドとしての初本番は、川崎市内の中学校でのイベント演奏。まだ何色にも染まっていない十数名での合奏でしたが、一歩ずつ音を重ねる喜びを共有することから、私たちの歩みは始まりました。

アンサンブルの研鑽と、本格的なステージへ

2019年は大きな転機となりました。ブラスバンドイベントである「東京ブラスバンド祭」へ初出演を果たし、その勢いのまま秋には第1回となる自主演奏会を開催。しかし、その後のコロナ禍によって対面活動は大きな制限を受けます。その間も、ハッピーペンギンブラス様との合同録音会を企画するなど、逆境下でも「今できる音楽」を模索し続けました。また、この時期に挑戦した四重奏でのジャパン・ブラスバンド・アンサンブル・ナショナルチャンピオンシップにて全国大会2年連続上位入賞（2位、3位）は、個々の技量を高める大きな糧となりました。

難曲への挑戦を通じた「現在地」の確認

近年の演奏会では、エドワード・グREGGソンの『Of Distant Memories』やハーバート・ハウエルズの『Pageantry』といった、ブラスバンド界における重要なレパートリーをメインプログラムに据えてきました。私たちがこれらの難曲に挑むのは、自らの実力を誇示するためではありません。本場のコンテストで切磋琢磨するバンドへの敬意を払いながら、あえて厳しい要求がなされる楽曲に全力で応えようとする中で、自分たちの音楽をより深く、より緻密に磨き上げたいという願いからです。

2026年、本日のステージに寄せて

2026年、本日のスプリングコンサートでメインに据える『The Forest of Dean』は、これまでの歩みの中でも最大級の挑戦です。創団から8年。体験会から始まった小さな輪は、今、多くの仲間と多くの方のご協力と応援、そして素晴らしい音楽に支えられ、ここに立っています。今日この場所で鳴り響く音が、私たちの現在地を映し出す誠実な響きとなるよう、一音一音に想いを込めてお届けいたします。



Performers

出演メンバー

Drums
宮川 響

Percussion
杉谷 比奈子

Timpani
長澤 莉佳

B♭ Bass
小峯 奈々

B♭ Bass
鈴木 敏之

E♭ Bass
桜庭 遊喜

E♭ Bass
鈴木 マサユキ

3rd Cornet
中川 航

Flugelhorn
青木 瑞生

Solo Horn
中山 宏美

1st Horn
塩澤 なつみ

2nd Horn
梅村 ふうか

3rd Cornet
金子 浩司

Solo Cornet
高井 陽香

2nd Cornet
本橋 惇有

Solo Cornet
松田 雅明

2nd Cornet
光武 克

Solo Cornet
佐藤 充

Repiano Cornet
若井 麻理子

Solo Cornet
安藤 智広

Soprano Cornet
池田 圭太

Solo Cornet
菊池 圭

Conductor
武藤 卓

2nd Baritone
岩堀 雅美

Bass Trombone
土戸 政人

1st Baritone
メール アンディ

Euphonium
石山 久美

2nd Trombone
森下 康彦

Euphonium
石山 久美

Euphonium
池田 真代

1st Trombone
早野 梨菜

フランク音楽出版社

Publishing

Quality Music
Scan me



スイスからご協力頂いているフランク出版社！

吹奏楽からプラスバンド等幅広く購入できます！
<https://www.musikverlag-frank.ch/>

セタコマグッズ紹介！



右のQRコードより他商品もご覧いただけます！
ホームページ「CONTACT」よりお問い合わせください。

売上は全額セタコマバンドの活動費に
充てさせていただきます。

セタコマバンド団員募集中！

練習場所：狛江市近郊施設（*主に 中央公民館） 練習日：毎週土曜日 合奏 19:20～21:00

募集パートはホームページをご覧ください。見学大歓迎です！どうぞお気軽にお問い合わせください。

(Mail) setakomaband@gmail.com (HP) setakomaband.com

次の演奏会は 2026年10月18日(日) 狛江市エコルマホールで開催予定です！

ご来場お待ちしております。